

PRESTO W50

50リットルリアクターの加熱 -40°Cから+20°Cまで

Objective

このケーススタディではPRESTO W50を使い、50リットルガラスリアクターを加熱します。PRESTO W50は2mのメタルチューブにより、ガラスリアクターに接続されており、-40°Cから+20°Cに加熱運転する様にプログラムされています。

Environment

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	400 V / 50 Hz

Test Conditions

JULABO ユニット	PRESTO W50
冷却能力	+20 °C 7.5 kW 0 °C 6.5 kW -20 °C 3.0 kW
加熱能力	6 kW
バンドリミット	行わない
吐出圧	0.5 bar
循環液	サーマル HL60
リアクター	50 リットルガラスリアクター (QVF) 循環液 35 l サーマル HL60
ジャケット容量	26.5 l
コントロール	外部制御 (ICC)

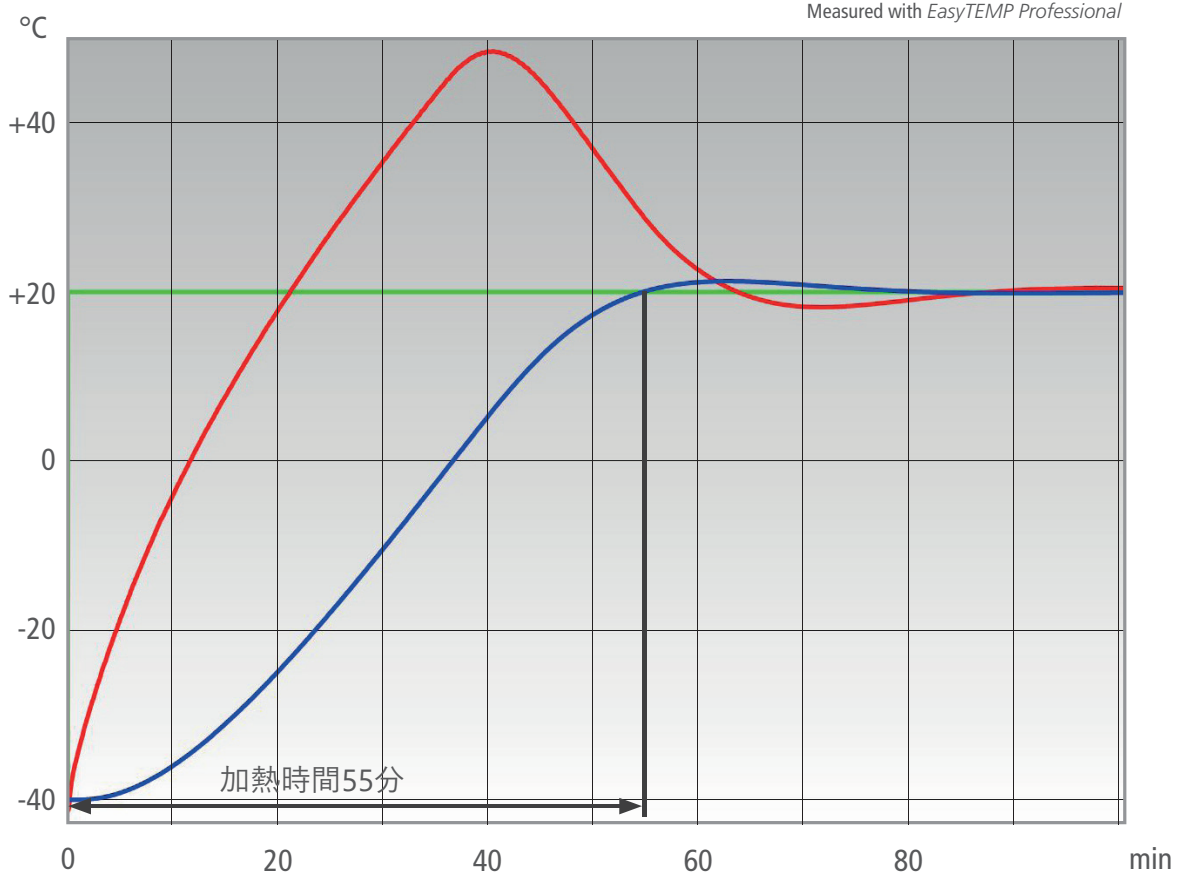
コントロールパラメーター

Xp	0.2 K
Tn	695 s
Tv	85 s
Xpu	15 K



Test Results

PRESTO W50はオーバーシュート無しで -40 °C から +20°C の加熱時間は55分でした。



- 設定温度
- リアクター内部温度
- リアクタージャケット温度

Tip

豊富なアクセサリがあります。M+R温度センサーは配管途中温度の表示や記録することができます。



Tip

無償のソフトウェア *EasyTEMP* を使えば、PCからのコントロールや温度カーブ表示をすることが出来ます。

EasyTEMP

